

デジタル田園都市国家構想総合戦略骨子（案）に関する意見

大野市長 石山 志保

- 骨子案からは、デジタルを「手段」として活用し、地方創生の取組を加速化・深化させるという方向性が見て取れます。引き続き、従来の地方創生も大切にしながら、人口減少・少子高齢化をはじめ、地域課題解決に取り組む地方を後押しする総合戦略になることを望みます。
- 地方でも、目指すべき将来像や抱える課題は地域によって異なることから、「地域ビジョン」の実現に向けて、地方の実情に応じて、住民、民間企業、団体、他の自治体などが一体となって取り組むことができるよう、分かりやすく実効性のある施策間、地域間の連携支援をお願いします。
- 「④魅力的な地域をつくる」に関して、我が国の国土の過半を占める「過疎地域」は、都市に対する食料・水・エネルギーの供給や、国土の保全、森林による地球温暖化の防止などに多大な貢献をしています。その一方で、過疎地域を含む中山間地域の集落は、人口減少・高齢化の進展が著しく、人々は畦畔の草刈りや有害鳥獣対策、除雪などの面で大変な労力を費やしている上、情報通信基盤の整備が進みにくいという状況にあります。山積する中山間地域等の課題は、フォローアップや施策紹介だけでは解決することが難しいため、財政支援を含めた抜本的な支援策の強化を望みます。